

未達

到達しても、到達にならない。

目標は、越えたはずだった。

だが、達成の感触は残らない。

基準はすでに、
次の位置へ置き直されている。

これは、成果不足の話ではない。
努力が足りなかったという反省でもない。
慢心を避けた結果でもない。

達成は、確かに起きている。

ただ、それが「到達」として登録されない。

理想が現在基準として固定されると、
到達は常に暫定になる。

越えた瞬間、
その地点は通過点へと変換される。

評価は更新され、
合格線はわずかに先へ移動する。

このとき、
成果は積み重なっているはずなのに、
どこにも残っていない。

未達だけが、
静かに残る。

この構造は、
成長を止めない。

だが同時に、
満足を定着させない。

前進と不足は、
同じ仕組みの中で同時に生まれている。

終わらないのは、
未熟だからではない。

Edition — 存在の芯
別景：未達

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026